

《宗教改革記念礼拝》

主 日 礼 拜

③夜7時～

③石井師

③石井師

「なる主」

5節

節

大川從道牧師

石井 潤牧師

番：和田姉・清

【司会者】

礼拝にお越しくくださった皆様を心よりご歓迎いたします！

《今週のお知らせ》

1. 本日午後1時～映画会を行います。遠藤周作氏原作の「沈黙」(約160分)。
2. 今週の祈り会：①月曜朝6時～早天祈祷会。②木曜午前10時半～、夜7時半～メッセージは大川牧師(大和祈祷会映像)。④土曜夜8時～準備祈祷会。
3. 来週日曜礼拝で子供祝福式と誕生祝福式。午後はヤンチャと聖書の学び。

11/12(日):聖餐式/執事会 16(木):大手家庭集会 19(日):大掃除

26(日):聖歌隊 27(月):長野家庭集会

一年に一回聖書を完読できる！ *Bible Reading Plan* [10/29~11/5]

[illegible]

「二人のマーチン・ルーサー」

～命を懸けてなしとげたことがあった～

「わたしはこの世を去り、あなたのもとに帰ります。彼らをあとに残して…。ああ、父よ。この人たちが一人も脱落しないように守ってください。わたしと父が一つであるように、彼らも一つとならせてください。…彼らをこの世から取り去ってくださいとはお願いしません。ただ、サタンから守ってください。わたしと同じように、彼らもこの世のものではありません。」 ヨハネによる福音書17章11、15・16節〔リビングバイブル〕

今、日本の私たちの周りでは、ハロウィーンのお祭りムードが溢れていますが、今週火曜日のハロウィーンの日実はもっとも大切な「宗教改革記念の日」です。

16世紀のドイツにおいて、一人の若い聖職者であり、大学の教授でもあったマルティン・ルターは、当時強大になりすぎて、富と権力によって腐りきっていたローマカトリック教会に対して、疑問を持ち始めていました。しかし、その状態が世界の常識のようになっていたので、反対することなど考えられない状況でもありました。

しかし、神様はそんな時代に純粋な若者たちを立ち上がらせました。その時代にルターだけではなく、その他の国々でも、多くの若者たちが立ち上がっていきました。今のようにネット社会ではないので、情報が氾濫していたとは考えられませんが、彼らが自分たちで神の霊によって奮い立たされて、立ち上がったとしか考えられません。フランスのカルヴィン、スイスのツィングリ、そして、カトリック教会内でも、ザビエルやロヨラが立ち上がりました。若者たちでしたので、粗削りで未完成のような状況でしたが、彼らは立ち上がって前進していきました。

1963年にはもう一人のマルティン・ルターがアメリカの自由のために立ち上がりました。英語名では、マーチン・ルーサー・キング・ジュニア牧師でした。彼も十分に若い存在でした。しかし、彼の語った命がけのスピーチによって、全アメリカだけではなく、全世界が差別の撤廃、あるひとつの考え方だけに固執する保護主義的なものからの解放を訴えました。

現在はどうでしょうか？ 逆戻りしているかのように見えます。もちろん福音は純粋なものです。そして、悪の存在は決して許さない義に満ちたものです。

イエス様は弟子たちをこの地上に残していくことに人間的には大きな心配がありましたが、信仰に立って、父なる神様にすべてお任せして輝いておられました。まるで、ご自分がこれから大いなる十字架のお苦しみを経験しないでこのまま天に帰って行かれるのかと思ってしまいそうになるほどのお祈りをなさっています。

私たちもやがては天国に導かれる存在です。そのことの上で、この地上での使命を果たしていかなければなりません。天に宝をつむ人生でありたいと願い、祈ります。